

鉄骨工事 Q&A	工事現場溶接	開先防せい範囲	制定	2012年9月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. 開先の防せい(錆)塗装の範囲は？

A.

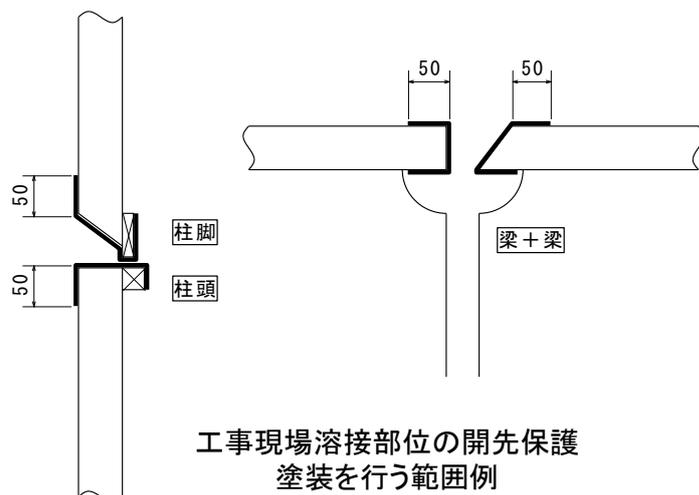
開先防せい(錆)塗装は一般の下塗りとは目的が異なり、溶接開始までに開先部にさびを発生させないために行います。その範囲は、おおよそ開先部から50mm程度で、裏当て金の付く面も同様です。

開先防せい塗装は特にはがすことなく溶接されますので、あまり厚く塗るとブローホールが発生することがあり注意が必要です。塗膜厚は一般的には5~7 $\mu$ m程度が良いとされています。

また、一般の下塗りに比べると耐候性には劣りますので、開先防せい塗装された状態で長期間保管する間に発せいすることがあります。

このような製品を保管する場合は、劣化した塗膜とさびを十分に除去してから再塗装する必要があります。溶接する前でも塗膜が劣化していればさびとともに十分に除去する必要があります。

この開先防せい塗装は開先部が発せいしていないことを確認してから行いますが、そのことを確認するために透明度の高い色を指定される場合もありますので、注意して下さい。



さびが浮いているので、  
溶接前には除去しなければならない



透明度の高い色の防せい塗料(一般に「クリア」と呼ばれる)  
開先面にさび、汚れ、キズなどが無いかどうか確認できる。



銀色の防せい塗料  
(一般に「シルバー」と呼ばれる)

※クリア/シルバーのどちらとするかは設計者・工事監理者に確認する